この記録は AI を使って整理したものです。

市民説明会（大迫）－令和8年 10 月 13 日開催－

質問①：市民の声がどのように反映されたのか、具体的な資料がほしい。議会だけでなく、市民にもわかりやすく情報提供してほしい。

回　答：ワークショップでの意見は約 220 件。このうち設計の意見 70 件中約 44 件（62%）が対応済み。そのほかアイデアとしての意見、サービス関連の意見など、ソフトについては今後検討する。

質問②：図書館の基本的なコンセプト、最初の構想がどうだったか示されていないのではないか。ワークショップは、参加者が限定的ではないか。

回　答：今回の設計は基本計画に基づいているもの。基本計画ではこれまで複数回説明会を開催し説明してきた。ワークショップは意見を聴く一つの手法で、読み聞かせボランティアや障害者団体への直接ヒアリングなど、複数の方法で意見を収集している。今後の説明では構想や経緯を説明したい。

質問③：設計契約で床面積 4,500 ㎡、蔵書数 70万冊と明示されているのに大幅に削減される。これは契約不履行や変更に該当するのではないか。床面積削減やカフェスペース廃止など、基本計画の重要事項が変更されている。市民参画手続きを経て策定された基本計画が根幹で、その大幅な変更は市民にとって重大な関心事項である。計画の変更手続きや市民参画手続きの再実施が必要ではないか。国庫補助金も大幅に減額され 1 億 6,000 万円となったが、どのように充当されているのか。基本計画ではカフェスペース設置が明記され議会からも要望が出ていたが含まれていない。その代わりにキッチンカーで対応するとの説明があったが不十分ではないか。

回　答：基本計画に「蔵書数等については、今後の資料のデジタル化および財政状況を考慮しながら引き続き検討する」と明記され床面積も検討段階であり変更の内容ではないと考える。契約の法律上の問題については、担当部署に確認する。補助金 1 億 6,000 万円は橋上化に充てている。国庫補助金の取得に向けて国交省へ要望していく。カフェスペースはぎんがギャラリーに設置するし、キッチンカーなど様々な営業形態に対応できるよう水道・電気設備を設置する。

質問④：図書館の床面積と蔵書数の説明が他自治体の平均値などに基づいているが、花巻市の特性や市民ニーズを考慮すべき。蔵書を減らさざるを得ない状況であれば、その理由や対策を明確に説明すべき。各市で異なる図書館像があるはずで、単に人口規模での比較では不十分ではないか。デジタル対応できない市民も多くいる。すべての市民を対象とした図書館であるべき。古い本を廃棄することは重大な懸念である。

回　答：収蔵数が減ったとしても構成は変えず、デジタル化やその他の方法を活用してサービスを提供することを検討している。除籍は貴重本ではなく読み継がれて古くなった本を新しいものに入れ替えるのが主となる。デジタル対応できない市民への対応についても検討する。

質問⑤：設計業務委託の総額が 3 億 7,994 万円で、基本設計分が 1 億 2,274 万 2,510 円と聞いているが、基本設計が終わった段階で受託側から請求があった場合、市はどのような対応をするのか。業務委託料の変更の可能性はないか。

回　答：基本設計と実施設計はひとつの契約である。現段階では相手方からの請求がないが、請求があれば支払う。契約については現時点では変更がないと考えているが、今後変更の可能性がある場合は検討する。

質問⑥：設計者は当初の 40 億円での計画実現に苦労したはず。延べ床面積や蔵書冊数を削減した背景には増加を避けるための工夫があると考える。3階建ては想定していなかったが妥当と考える。財源面での不安を払拭するため、より明確な説明が必要である。合併特例債は合併に伴う補助であり、旧 3 町に対してもバランスの取れた配分が必要で新市建設計画に基づくべき。花巻への集中傾向が見られ使途配分の検討が課題である。

回　答：比較調査時の事業費 40 億円は過去データに基づく推定値だったが、設計により 55 億円となったもの。国庫補助金 15 億円の確保に努めるが、その他の財源（ふるさと納税、森林譲与税など）についても検討している。大迫の文化財センター（約 10 億円）は合併特例債を活用している。図書館は新市建設計画に記載されており、計画に基づいて進めている。

質問⑦：議員説明会の議事録はいつ公開となるか。本来は説明会の開催前に情報を公開すべき。国庫補助金の情報についてもしっかりと市民に伝えるべき。

回　答：議事録の公開については、できるだけ早く公開していきたい。

質問⑧：初めて来た人にもわかるような説明をしてほしい。ますます人が来なくなる。少数派の意見も踏まえて検討を進めてほしい。

回　答：わかりやい説明に努める。ご意見として承る。

市民説明会（東和）－令和8年 10 月 14 日開催－

質問①：立地適正化計画では新図書館を病院跡地に建設すると明記されていたが、なぜ駅前に変更されたのか。4,500 平米、70 万冊という基本計画に基づいて設計契約しているはずだが、契約変更の可能性はないか。駅前がいいという具体的なデータはあるか。対話型市民会議は 75 人しか参加せず 4 回開催したが出席者は少ない。市民の意見を代表できるのか。病院跡地建設を求める署名 6,181 人に対して、わずかな会議参加者で市民の民意を反映しているのか。

回　答：立地適正化計画ではまなび学園周辺への移転が示されていたが、その後、現図書館の問題点として公共交通機関に乏しいことから、駅に近い場所の可能性を調査してきたもので、市議会からも駅に近い方が良いという意見があった。当時開催したワークショップでは 6 か所の候補地、駅前 2 か所、まなび学園周辺、病院跡地を含む 4 か所を提示して意見を聞いた。このような経過の中で公共交通機関を利用しやすい駅前が候補地として検討されるようになった。駅前がいいという具体的な数字は持っていない。これまでのワークショップやアンケートで駅前を支持する意見はあった。対話型市民会議は議会に説明し予算をいただいて実施した。その意見を参考にして市が場所を決め教育委員会が基本計画を決定し、議会の了解を得て設計も進めてきたもの。基本計画に蔵書数の変更も検討すると書いてあり契約変更はないと考えるが、法的に問題ないか担当課に確認中である。

市民説明会(花巻)－令和8年 10 月 19 日開催－

質問①: 面積や蔵書数の変更は現実的であり評価する。事業費増加も致し方ないと理解するし、図書館にお金をかけることを過度に負担に感じるべきではない。貧相な図書館を作らないよう要望する。7 ページでは「活動エリア」、5 ページでは「地域情報雑誌コーナー」と記載されており、1 階の具体的な使い方が明確でない。どのような方向か。動線が長く階段利用時に 1 階から 3 階への移動で負担。車椅子利用者などにとっても移動が困難ではないか。パースでは座席のむこうに書棚があり行きづらい。吹き抜けがあるため下階の声が上階に上がってくる。3 階の静かさをどう確保するのか。基本計画での開館時間が学習スペースと図書館部分で 2 時間半の時間差がある設定だがどうするのか。スケジュールについてだが、前の計画だと芝生広場を作る予定だったがなくなった。工事の前倒しができないのか。カフェ設置は不要であり、町中にカフェが多くあるので図書館にカフェを作るより町へ利用者を流す方が良いのではないか。

回　答：1 階は待合室的なテーブルイスを置き、学習や活動もできるエリアを想定している。雑誌もそこに配置する予定だが具体化はこれからである。動線については設計者のコンセプトであり、プロポーザルで採択された経緯がある。フロアの平坦化やショートカット階段の追加など、利用しやすさを向上させるよう協議検討している。書架と座席配置については、十分なスペースを確保し、通路の確保に配慮するよう検討する。3 階の一部に完全に静かな部屋を作る予定。3 階全体が制限されるわけではなく、3 階は静かに本が読める・学習できるスペースを設けたい。開館時間については、駅側の 3 階学習エリアまでを夜まで開館したいと考え検討している。芝生部分がなくても手続き上わずかに早まる可能性があるだけなので現在の計画に沿った形で進む見込み。

質問②：設計事務所との契約期間はいつまでか。この費用にはプレ室開設費用も含まれているのか。今後、説明会は開催するのか。事業費は 40 億円の予定だったが、55 億円に高騰することを事前に想定できなかったのか。

回　答：契約は来年（2027 年）3 月までの予定。プレ室費用も含まれた契約額となっている。基本設計の説明会は終了の予定。今後ホームページ等で公開していく。資料の通り物価等上昇しており、建築に関しても想定以上の上昇があったことはご理解ください。

質問③：ガーデンテラスの雪対策及び植樹の管理費についてどの程度かかるのか。学習スペースはどの程度の利用者数を想定しているのか。他の学習施設の利用者も含めて検討しているか。シアター階段についての利便性は。

回　答：ガーデンテラスは屋外で本が読める空間でこれまで要望もあったもの。パースは参考イメージであり植樹するかは検討中。学習スペースなど配置にあたり利用者数を把握しているところ。柔軟に対応できるよう検討しているが詳細は実施設計段階となる。シアター階段については改めて設計と協議していく。

質問④：以前の説明会では国からの補助金があるため市の負担は少ないとの説明だったが、市の負担額はいくらになるのか。駐車場の利用料金について図書館利用者は無料と説明され

ていたが、そのほかの人はどうなるのか。図書館以外の利用者が無料利用する可能性や、本来得られる駐車場料金収入が減る可能性についてはどうか。調度品は事業費に含まれているのか。市民の財源負担額がさらに増えるのではないか心配である。

回　答：前回の比較調査と今回の設計段階では数字が異なる。物価高騰など予測できなかった部分がある。国庫補助金、合併特例債、森林譲与税など利用可能な財源を現在調査中であり、使える財源を確保しながら進める。駐車場についてはカメラで管理したりカードや駐車券が必要なものなど様々ある。コスト面も含めて駐車場関連会社や設計業者と協議している。調度品とは固定の本棚など動かないものか、テーブルなど動くものなのかで分類が異なるが、工事費に含まれるか精査している。国庫補助金 15 億円については国に交渉・説明をしていく。他の財源の活用も検討しており市民負担を少なくするよう進める。

質問⑤：業務委託契約（3 億 7092 万円）における基本設計（1 億 2000 万円余）の完成品は納品されたのか。正式な完成品としていつ頃納品できるのか。具体的にどのような部分の修正を設計業者に要求しているのか。

回　答：検査段階で修正が必要な箇所があったため納品には至っていない。設計業者に修正を依頼している状況である。誤字脱字、図面の見やすさ、パース、説明の充実など、細部の修正を求めている。具体的な納品時期は示していない。

質問⑥：工事期間中の多目的広場スペースの状況について、花巻まつりなどのイベント開催への影響はどうなるのか。

回　答：設計会社が花巻まつりや宵宮など見ている。影響を少なくできるように考えているが工事では足場組立や解体作業により影響が生じる可能性がある。工事進行に伴い随時住民と説明・相談しながら進める。

質問⑦：ワークショップや説明会で、建物に木を使いたいという意見が何度も出ていたと思うが、今回の基本設計には反映されていないのではないか。事業費の増額と補助金について前市長の時点では事業費 40 億円で市の負担が 8 億円と説明されていたが、現在は 55 億円に増額している。このような状況下で、補助金が満額交付されるかどうか不透明ではないか。

回　答：森林譲与税という財源を活用すれば、木材の使用が可能な場合がある。市としても、木材を使う場合の費用シミュレーションを実施している。市民の負担が過度にならないよう検討していく。

質問⑧：「新たなあかりをともす」というコンセプトは図書館らしさが感じられないのではないか。現在の図書館の利用者は、本が好きなヘビーユーザーや高齢者が多いようだが、新しい図書館はこうした既存利用者層を対象としているのか。図書館の具体的なターゲットが見えない。窓が少ない。

回　答：基本計画における基本方針は「郷土の歴史と独自性を大切にした図書館」「全ての市民

が親しみやすく使いやすい図書館」「地域の課題解決に貢献する図書館」など堅い表現でしたので、プロポーザル選定委員の先生に協力を得てイメージを持てるようにコンセプトの言葉を作成したもの。1 階は多様な方の利用を想定しており、観光客や子どもたちが入りやすい設計にしている。小布施図書館のように、駅前で観光情報も提供するなどして街の賑わいを創出したいもの。

質問⑨：駅前は緑が少ないため、どれくらい植物を設置する予定か。外観は箱物的で花巻らしさが感じられない。外観や空間に宮沢賢治の特徴的な雰囲気を感じられるようなものを考えているか。講演会や映画会ができる多目的スペースをリクエストしてきたが、図面を見ると使いやすいスペースがないように見える。外観については、宮沢賢治らしさにこだわらなくても良いが、新しく整備するのであれば、おしゃれで思わず入ってみたくなるようなデザインの建築にしてほしい。現在の写真ではその点が不足しているように感じる。

回　答：テラスに緑を少し設置する予定だが、多目的広場にかからない前方部分や線路側にも緑を設置することを検討している。館内には宮沢賢治コーナーを配置。外観に宮沢賢治らしさを出すのではなく、見た人が個々に感じてもらえればいい。館内では賢治に関係する企画なども展開していく予定。1 階の公園前に多目的ギャラリーを準備している。2 階から 3 階に向かう階段をシアター階段として、座席付きで 30～40 人程度が座れる設計にし、映像放映やイベント開催が可能。1 階にはより小さな読み聞かせコーナーなども配置し、柔軟に対応できるよう検討している。設計者は公募で全国から選ばれた方で実績もある。設計者のセンスに期待している。

質問⑩：施設の利用体制について 新しい施設を作っても利用者が少なければ問題。利用を促進するための体制づくりについて、スタート時点からどのように考えているか。

回　答：利用促進方法、提供サービスについても検討している。これまでの図書館運営のルールから本の購入方法、利用方法といった全てについて検討中。市民からのご意見も踏まえながら、実現可能な範囲でサービス内容の調整も進めている。

質問⑪：JR 利用者向けのアクセス確保や、高校生の利便性を高めるための具体的な配慮について説明してほしい。パースの本棚の安全性、特に児童コーナーの階段や高い壁に本があることや、一番の下段は台形状の本棚が採用されていない点が懸念。また、学習スペースの丸いテーブルやスツールが、高校生や学習者にとって本当に利便的か疑問である。駐車場は他施設や JR 利用者との競合問題が以前から指摘されているが、明確な説明がされていない。

回　答：高校生などの学生数をふまえて検討していく。パースはあくまでイメージであり、今後の実施設計の中で配慮や改善を加える予定である。駐車場については、図書館利用者は無料を想定しており、様々な対応方法を現在検討中である。

質問⑫：運営などソフト面の説明会は別に予定されているのか。カフェ、蔵書、図書館機能など、具体的な運営内容についての説明時期は。要望としては、国立国会図書館のインタ

ーネットサービスの利用方法やコーナー設置の検討、個別に本を読めるスペースの確保。カフェについては不要と考える。

回　答：今回は基本設計の段階で建物の形状や構造を中心に説明している。ソフト面については、実施設計の段階で具体的な形を示す予定。図書館のスタッフとも協力して進めている。ご意見として承る。

質問⑬：基本設計段階での修正は誤字脱字程度で、主要な修正や契約変更はないという理解でよいか。

回　答：契約はかわらない方針である。ただし、法的に変更が必要と判明した場合は変更を含めて対応する。

質問⑭：児童コーナーが玄関入って必ず通る場所であるため、子どもたちに触ったり、不審者の侵入を防ぐよう、安全対策を講じてほしい。

回　答：ご指摘の通り児童エリアを必ず通る形のため、現在修正を依頼している。

質問⑮：幼児向けに、本を見たり、踊ったり、歌ったり、寝転がったりできるスペースが欲しい。説明会やワークショップでは、学生や高校生、市民からもカフェコーナーが欲しいという声が大きかった。いらないという意見もあったが、カフェコーナーは設置してほしい。これほど変更するなら、土地代や解体代、駐車場などの費用がかからない総合花巻病院跡地に変更した方がいいのではないか。

回　答：幼児向けエリアの設置を考えている。現在の図書館にも靴を脱いで入れるスペースがあり、最近の図書館ではそのようなリラックスできる空間が一般的になっている。カーテンなどでも仕切ることできるようなコーナーにしたい。カフェコーナーは反対意見もあるが、現段階では立派なものではないが設置できないか検討中である。ただし、運営してくれる民間事業者があればという形を想定している。また、図書館内での飲食については、限定的なエリアで可能にすることも含め他の図書館の事例を参考に検討していきたい。昨年 5 月に花巻駅前を建設地とする基本計画を策定し、6 月の議会でも基本設計と実施設計の予算をご承認いただいて進めている事業であるため、ご理解いただきたい。

市民説明会（石鳥谷）－令和8年 10 月 20 日開催－

質問①：耐震性・耐寒性チェックするべき。非常時の避難所としても機能し、寒さ対策が施されるだろうからスタッフ出入口や移動図書館車の進出入など、細部まで検討してほしい。西側（線路側）は防音対策が施されると思われるが、吹抜けの音対策などどうなるのか。特にシアター階段での音が館全体に響くことがないよう遮断してほしい。図書館としての利用者に影響が出ないようにすべき。3 階に静かな部屋が設けられるが人数制限があり、３階までに時間がかかる。中央に配置された閉架書庫本棚を吹き抜けで支えることが構造的に安全か疑問。将来的に蔵書が増えた場合、この構造で対応できるのか不安である。建物の配色について、白では駅の黒とのコントラストが強すぎて市の顔にふさわしくないのではないか。花巻のイメージにふさわしい違和感のない配色に変更してほしい。テラス席の利用ニーズや必要性が不明確。雪が積もる地域であることや転落事故のリスクを考慮すると懸念がある。

回　答：耐震性・耐寒性の確保について、設計者はプロポーザル審査で選定された業者であり、建築の先生など審査員によって選ばれた実績のある会社である。西側については窓を少なくするなどの配慮がされている。避難所は駅前のなはんプラザとなっており、本建物を避難所として想定していない。吹き抜けは 1 階と 2 階に存在し 3 階にはない。シアター階段については、上下で閉じられるよう現在設計の協議を進めている。3 階は静かな空間として設計されており、完全防音室と会議室などもあり。当初の提案ではより複雑な空間構成がされていたが、簡略化している。階段やエレベーターも複数配置しショートカット経路も検討してきた。書庫があっても構造的には問題ないと考える。鉄骨造で柱が等間隔に配置され、中央部は太くなっており、構造設計の専門家によって計算されている。花巻の顔となるような特徴のある建物であることも必要との考え方もある。配色については、設計者の専門的知見を尊重したい。ご意見として設計者に伝達する。テラスについては、雪が積もる地域での利用方法については懸念があることは承知しているが、市民の要望がある。雨が当たらない部分もある。

質問②：新図書館の学習スペースについて、夜 9 時まで開館するのは配置図のどの部分に該当するのか教えてほしい。イーハトーブ館から移動してきた貴重な資料は、現物展示ではなく電子資料での対応の方が劣化や防犯面で良いのではないか。新図書館の運営コスト（維持費など）の見通しについて聞きたい。旧図書館が使用されなくなった後の施設利用計画は。図書館利用者や職員の需要で成り立っていた周辺飲食店への経済的な影響が気になる。過去の太平洋戦争や阪神淡路大震災での図書館被害を踏まえ、閉架書庫が 3 階で貴重な資料を保護できるのか懸念される。

回　答：5 ページの図面の右側の 3 階までを夜 9 時まで開放する予定。1 階の地域情報雑誌コーナーと暮らしのテーマ企画書コーナー、2 階の一般図書エリア北側（駅側）、3 階の学習エリア北側に閲覧テーブルを配置する。需要を見ながら柔軟に対応していきたい。イーハトーブ館や賢治記念館の貴重な資料については、現物を持ってくることは考えていない。電子化やデータ化での対応を検討中。貴重な資料は、博物館など適切な施設での保管を継続する。運営費は環境配慮基準に基づいて省エネ機能を備えた設計としているが、詳細な数字はまだ計算中。旧花巻図書館跡地については、花西地区の振興センターへの活用も考えているが、まだ決定事項ではない。

質問③：賢治コーナーについて具体的なイメージが伝わってこない。このコーナーは郷土エリアの中に入るのか、それとも別なのか明確にしてほしい。さらに、翻訳本の企画など、宮沢賢治関連の翻訳資料を一括して展示する考えはあるか。また中村哲氏の愛読書など、宮沢賢治との出会いが人生を変えた人物に関する資料や、そうした人脈図のような展示の拡がりも作ってほしい。宮沢賢治に特化した図書館は花巻でしかできない。世界一の図書館として実現しインバウンド効果なども考慮してほしい。「新たなあかりともす広場」というコンセプトについて、具体的には個性がなく、コンビニのような普遍的な概念に感じられてがっかりしている。このコンセプトはどのような経過を経て決まったのか説明してほしい。平成 24 年度の市民懇話会で作られた「知の泉豊かなとき出会いの広場」というコンセプトがよかった。市民が何度もワークショップを重ねて作り上げたメッセージが込められている。これが消えてしまうことは残念である。ぜひこのコンセプトをどこかに組み込んでほしい。プレゼンテーション時に設計者が「市民ライブラリアン」という概念を提案していた。素晴らしい発想だと感じたが、その記載がどこにもないように見える。この構想はなくなったのか。

回　答：賢治コーナーは 2 階のティーンズエリアに設置を考えている。若い世代に賢治を理解してもらうように。何度も訪れたくなるよう固定ではなく内容を変える予定。まずは「銀河鉄道の夜」をテーマにした図書や関連資料を集めて展示し、その後「風の又三郎」など別作品に変更するなど考えている。地域郷土エリアでも宮沢賢治コーナーを設け、賢治を研究した本なども並べたい。企画展示の形で、異なるテーマを複数回実施していく予定である。設計者と今後詳細を詰めていく。このコンセプトワードは、選定委員副委員長吉成先生の指導により、基本計画に基づきながら設計者の考え方も踏まえて、市で設定したもの。「知の泉豊かなとき出会いの広場」は平成 24 年懇話会の提言のキャッチフレーズであり、当時のコンセプト３つは現在の基本方針３つに継続している。新たに言い直す必要はないと考えている。今回説明しているのは建物の基本設計でありソフトの部分については検討段階である。市民ライブラリアン構想については、設計者も関係者と検討を進めている状況であり、これから検討していくものと考えている。